

リモートアクセスセキュリティで新技術

東レ出資のベンチャー企業、いいじゃんネットは、リモートアクセス装置「カチャットサーバー」を発売。インターネット経由で安全・手軽に導入できる点が評価され、好調な売れ行きを示している。SIチャネルを強化することで中堅中小企業ユーザーに拡販していく考えだ。

「企業の情報システム部門でのヒアリングを重ねてようやく商品化にこぎつけたのが、カチャットサーバー」と、いいじゃんネットの坂本史郎社長は話す。

いいじゃんネットは2000年、東レのベンチャー支援制度によって創設。当時、電子メールをサーバーに蓄積しておくことで、ユーザーがどこからでもメールを取り出せるサービス「メールポインター」を主力商品として打ち出したものの、“鳴かず飛ばず”に終わってしまう。企業ユーザーではセキュリティの観点から、電子メールの転送を禁止しているケースが多く、情報システム部門ではなかなか導入してもらえなかったのである。

その後、どのような製品が購入してもらえるのか、東レを始めとする企業の情報システム担当者に再度提案を持ち込み、技術や用途開発面でのさまざまな試行錯誤を経て、2002年末に完成したのが「カチャットサーバー」であった。

企業が求めるセキュリティ対策

カチャットサーバーは、インターネット経由で社内のメールやファイルなどを閲覧したり、自由に取り出せるソフトとハードをセットにしたサーバー機器である。

では、どのようにして、このサーバーが生まれたのだろうか。開発に先立ち、リモートアクセス用途につい



いいじゃんネット
坂本史郎代表取締役社長

て情報システム担当者にヒアリングしたところ、大きな課題が浮上した。それは、インターネット経由で社内のネットワークにアクセスする際にIPアドレスやネットワーク構成を変えなければならないという問題。

ほとんどの社内LANではローカルIPアドレスが用いられているため、インターネット経由で社内の端末にアクセスするためには、外部からアクセスできるよう、ファイアウォールのDMZ(非武装地帯)セグメントにリモートアクセス用のプロキシサーバーを設置するといった対策が必要になる。しかし、プロキシサーバーを設置する場合は、ファイアウォール側で通信ポートの一部を開放しなければならず、このことが社内のセキュリティポリシーに影響することもある。情報システム部門ではなかなか導入できなかった。

「この課題を解決できればリモートアクセス装置が売れるはず」と考えたいいじゃんネットでは、高い技術力を持つインド人エンジニアを雇い入れ設計から開発まですべて自社で開発。約2年の歳月を経て作り出したのが、「transIP」というコア技術である。これは、ローカルIPアドレスを使った社内LAN上の端末と、フ

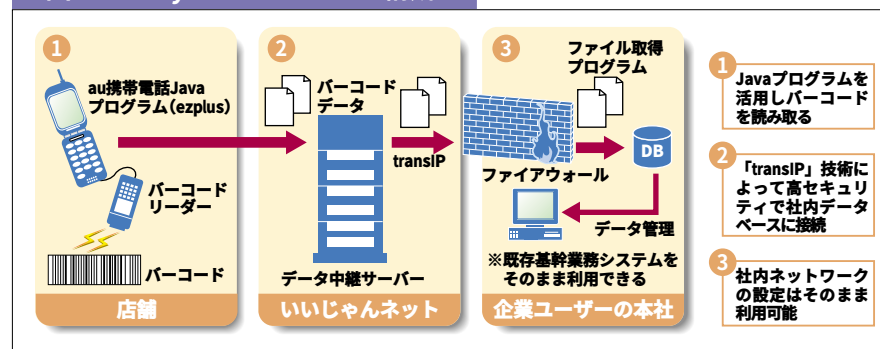
ファイアウォールの外側にある端末を容易に通信できるようにするネットワーク技術であり、この技術を実装したサーバー製品が「カチャットサーバー」である。

この製品の特徴は、社外に設置したログインサーバーを活用しカチャットサーバーと社外の端末と通信を行うことで、ファイアウォールの設定を変えずにリモートアクセスを実現した点にある。

カチャットサーバーが毎秒、ログインサーバーに接続し、社外の端末からログインサーバーへアクセスがあるかどうかをチェックする。社外の端末からログインサーバーにアクセスがあると、ログインサーバーはメモリー上に端末から入力されたIDパスワードを保持。毎秒ログインサーバーに接続しているカチャットサーバーが、このアクセスを検出するとIDパスワードを読み取りユーザー認証を行う。次に、カチャットサーバーがあらかじめ社内LAN上のメールサーバーやグループウェアなどに定期的にアクセスし取得していたデータを、Webアクセスで一般的に使われているHTTP(Hyper Text Protocol)ポートを通じてログインサーバー上書き込む。この仕組みによって、社外の端末から、ログインサーバー上書き込まれたメールやグループウェアのデータが閲覧できるようになる。現在、メールサーバーは、POP3、IMAP4、ノーツメールの方式に対応している。

カチャットサーバーの設定は、ローカルIPアドレスや閲覧したいサーバーのIDパスワードを記入するだけ

図2 easyPOSのシステム構成



で済むため、慣れればわずか30分で完了するという。リモートアクセスを行いたいのが、ネットワーク設定が大変ということではなかなか踏み切れなかった多くの企業ユーザーから、これなら使えるのではと問い合わせが急増。なかでも携帯電話から安全・簡単に社内メールを閲覧できるという点が評価され、順調な売れ行きを見せており、現在1000ライセンスが契約済みである。

transIPを軸にアプリ開発

いいじゃんネットでは、メール閲覧以外にtransIPを活用したいくつかのソリューションを開発している。その1つが、デジコード社と共同開発したもので、Java対応のau端末とバーコードリーダーを組み合わせたモバイル型のPOSシステム「easyPOS」。社内LANに設置した既存の基幹業務システムと、携帯電話が通信を行う部分にtransIPを適用。POSシステムを設置できない仮設店舗などでの利用を想定している。

さらに、売上拡大を図るため間接販売チャネルの開拓を強化している。現在の代理店は、日本HPの関連会社であるHPSD(ヒューレット・パッカード・ソリューションデリバリ)

社、中堅企業に強いSIである日本情報産業、モバイルを切り口にコンテンツ配信からシステム開発まで手がける日本エンタープライズ、PBXを販売する通信機ディーラーである第百通信工業、東レグループのシステム導入・運用を行う東レシステムセンター社の5社。さらにSI力、販売力のある代理店を募集する考え。ただし、代理店には「transIPを活用した業務システムの構築やサービスを提供してもらいたい」という意向。カチャットサーバーはリモートアクセスを実現するインフラのため、あらゆる業務アプリケーションに適用できる。例えば、東レシステムセンターは、カチャットサーバーの仕組みをASPサービスの1メニューとして提供する。これにより、東レグループのユーザーに対し社内の業務システムに自由にリモートアクセスできる環境を提供できるようになる。

坂本社長は、「商品化に当たってさまざまな試行錯誤を重ねた分、技術面ではどのようなソフトでも開発できるようになっている。代理店とのパートナーシップを強め、企業ユーザーのニーズに応えられるアプリケーションを次々に提供していきたい」と話している。

図1 カチャットサーバーのシステム構成

